

**ヤマトグサ**

*Theligonum japonicum* Okubo et Makino

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

被子植物門 双子葉類 離弁花群

環境省：該当なし

ヤマトグサ科

**選定理由**

岡山県で生育しているのは1カ所の狭い範囲であり、個体数も少なく危機的な状況にある。それと気づかないほど地味なため、登山者の踏みつけも脅威となる。

**存続を脅かす要因**

森林伐採、踏みつけ、業者・マニア採集（園芸採取）、産地局限

**分布状況**

県内では北部の2カ所で標本採集記録があるが、現在確認できるのは自然林の林下に生育する1カ所のみ。生育範囲は狭い。県外では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。

**生育情報**

高さ15～30cmになる多年草。茎は円くて1側に短毛があり、下部でまばらに分枝する。葉は対生、卵形または狭卵形で長さ1～3cm、幅8～20mm、まばらに短毛があり、縁には鋸歯がない。葉柄基部に膜質の托葉があり、1～2個の雄花または雌花をつける。花期は5月。雄花に花弁はなく、萼片3個は反り返り、雄しべは多数、葯は垂れ下がる。雌花にも花弁はなく、緑色で非常に小さく、湾曲した花柱が目立つ。花がないとアカネ科のハシカグサと区別するのが難しい。

**特記事項**

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。明治20年、牧野富太郎が日本人として初めて学名をつけた記念すべき植物で、日本の特産種。

文献番号 4, 72, 106, 121, 129

(地職恵)



撮影：地職恵



**ウラゲウコギ**

*Eleutherococcus spinosus* (L.f.) S.Y.Hu  
var. *nikaianus* (Koidz. ex Nakai) H.Ohba

岡山県：情報不足

被子植物門 双子葉類 離弁花群

環境省：なし

ウコギ科

**選定理由**

岡山県北部中部の山地山足に自生とされるが（大久保，1999）、その後の確かな生育情報がなく、現状不明である。

**存続を脅かす要因**

不明

**分布状況**

岡山県では県北部中部の山地山足に自生とされる（大久保，1999）。本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布する。

**生育情報**

高さ1m前後になる夏緑性小低木。枝はふつうとげがある。葉は掌状複葉で小葉は5個、長さ1.5～5cm、幅1～2.5cm、上面脈上に毛状の小突起があり、葉の下面には短硬毛がある。葉縁は欠刻状の鋭い重鋸歯があり、葉柄は長さ3～7（～10）cm。花は5月に咲き、長さ2～5cmの柄の先に1個の散形花序をつける。花序は無毛で、小花柄の長さ5～8mm、やや多数の花をつける。果実は球形で径約5mm、黒く熟する。同属のヤマウコギは葉がやや大きく、小葉は長さ3～7cm、鋸歯は低く、重鋸歯にならないことで、オカウコギは葉の両面が無毛であることで区別できる。

文献番号 39, 73, 121, 127

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟

